

平成28年第5回狭山市定例教育委員会会議録

開催日時 平成28年5月17日(火)
午後1時30分から午後3時50分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 向 野 康 雄
教育長職務代理者 吉 川 明 彦
委 員 荒 川 和 子
委 員 橋 本 秀 樹
委 員 宮 崎 英 子

欠 席 者 な し

委員及び傍聴人を除くほか、議場に出席した者の氏名

生涯学習部長	小 澤 一 巳	次長兼教育総務課長	滝 嶋 正 司
社会教育課長	大 寺 宏 之	中央公民館長	田 中 肇 夫
中央図書館長	奥 富 悟	スポーツ振興課長	栗 原 和 昭
学校教育部長	井 堀 広 幸	参事兼教育指導課長	和 田 雅 士
教育センター所長	鈴 木 浩 明	学 務 課 長	奥 野 高 雄
書 記	中 山 昭 夫		

傍 聴 者 数 0 名

報告事項

- ・狭山市社会教育委員会議の提言について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

この提言は、2年前の社会教育委員会議において提言された、若年層と高齢者グループの中間に位置する中間層が、地域活動へ参加することの利点などをまとめた「社会教育をより充実したものにするために」を具現化するための方策の研究を行い、中間層世代が地域活動を含め生涯学習、社会教育活動に参加するためにはどんな方法があるか、特に地区の体育祭において防災をテーマとした競技種目を入れたらどうかというところをまとめたものである旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、社会教育の切り口で若年層を取り込もうとしているが、学校教育との連携は考えたかとの質疑に、前回の提言には、学校教育との連携も含めていたが、社会教育委員会議では、2年ごとに提言書をまとめ

ており、この2年間は、この提言は誰に向かって出すものなのか、誰が実行するものなのかという議論も行い、社会教育委員自らが実施する若しくは実行部隊となって自ら着手してみようという切り口で行ってきたので、具体的に学校との連携には及んではない旨の答弁がなされた。「この提言を誰が実行していくのか」については、教育委員会に提言が提出された以上は、我々がさらに研究を重ねて実現化していく必要があると思っている。若年層の取り込みに関しては、学校教育も連携してもらいたい。社会教育委員自ら動いてもらうのはありがたいことであるが、子供たちのことに関しては学校教育の中で地区体育祭などにもバックアップしてもらいたい旨の意見がなされた。地区体育祭には、消防団も出ているので、防災関係のことを行ってもらうのもよいのではないかと意見がなされた。地区によっては、実際にポンプ走法を披露したりといった活動は行っているようである。そうした中で、防災に関わるような訓練をするといった切り口もあるかと思う旨の答弁がなされた。良い発想だとは思いますが、競技を変えるだけでは取り込めないと思う。子供が参加できるような競技を行うなどいろいろな切り口があると思う。若年層を取り入れたいのなら、総合的に自治会や住民に伝えて参加をお願いしていく以外にないと思っている旨の意見がなされた。体育祭は地区ごとに開催されているが、小学校単位で行うと良いと思う。自治会との関り、また、地区によっては小学生が分かれてしまうようなところもあるので、今後、地区の再編制も必要と思う旨の意見がなされた。

・狭山市立博物館の臨時休館について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

館内の燻蒸作業を行うため、平成28年6月29日(水)から7月1日(金)まで臨時休館する旨の報告がなされた。

・平成28年度中学生学習支援事業「さやまっ子・茶レンジスクール」実施計画一覧について

報告者(教育指導課長)

(要旨)

5月14日(土)に入間川中学校区からスタートした。当日は、登録数より少ない5名、翌日は中央中ブロックが東小学校でスタートし、8名の参加者があった。人数は少なかったが、参加している生徒は意欲をもって自主学習に取り組んでいたと感じた。また、SSVCの方が熱心にサポートしてくれるので、地域の方との良い交流の場面にもなっているとの印象も受けた。今後、実施するうえで課題もあるかと思うが、より良いものにしていきたいと考えている。なお、夏期休業中、冬期休業中の塾の講師による集中講座については、業者を選定中である旨の報告がなされた。教育委員からの質疑等では、4月に各学校において保護者会があったが、このことについて意見等出されているかとの質

疑に、特に意見等があったとは聞いていない旨の答弁がなされた。支援事業の行い方はとの質疑に、各生徒が自分の家から学校の教科書或いは副教材等を持ち込み、自主学習する中で分らない点などを支援員に支援してもらう形である旨の答弁がなされた。生徒一人ひとりの実情であるとか学年の実情といったものは、支援員に伝えてあるのかとの質疑に、担当の指導主事が、学校長、コーディネーター及び学習支援員と密に連絡を取っており、学年の実情等はコーディネーターには伝わっている。また、学習支援員は、通常の学校の授業の中でも、学習支援ボランティアとして支援をしている方がほとんどなので、生徒の学力の実態等はある程度把握している旨の答弁がなされた。学習支援員の中で、教職経験を持っている方を把握しているかとの質疑に、今のところ把握していない旨の答弁がなされた。今回参加希望者147名でスタートしたが、当初は、700名を想定していた。今後の見通しはとの質疑に、1年生は、9月から募集をかける。3年生は、部活動が終わるので、再度募集をかける。特に3年生には、多く入ってもらいたい。現在の倍くらいになるのではないかと見込んでいる旨の答弁がなされた。大勢の生徒が参加出来るようにしてもらいたい。また、夏期、冬期の休業中の集中講義については、塾のノウハウを活かした良い取り組みがあるような、効果が出るような業者選定をお願いしたい旨の要望がなされた。新しい事業なので、見直しを行いながら進めていかなければいけない。PDCAサイクルに基づいて進めるということであるが、情報交換や見直しをするような計画はあるかとの質疑に、推進委員会という組織を設けており、およそ月に1回、学校ごとのコーディネーター、学習支援員と教育委員会の事務局で集まり、情報或いは進捗状況を確認しながら教育委員会としてもアドバイスをしていきたいと考えている旨の答弁がなされた。いろいろな情報を集めながら慎重に進めてさらに良いものになっていくよう練り上げてもらいたい旨の意見がなされた。

・平成28年度狭山市立小・中学校職員一覧について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

狭山市立小・中学校の職員体制の市費の教員補助者について、報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、さやまっ子相談員の配置について、狭山台中学校は統廃合で生徒数が増えたことで、当初相談員を増やして常駐にという話を聞いていた。相談員は増やしたが、さやまっ子相談支援員は減っており、実際には増えていない。人間中学校の統廃合のときも相談員は苦勞していたので、相談室に複数人入れてもらいたい。相談員一人では負担が重い、相談員同士でケース会議のようなことが出来ると、子供たちにとっても良いと思うので、相談支援員の配置について考えてもらいたい旨の意見がなされた。今年度、狭山台中学校には県費負担教職員による「児童生徒の心身の健康への対応加配」がなされ、養護教諭が2名配置されている。これは、心や体で配慮が必要な子

どものために付ける加配であり、教育相談的な部分でも役割を果たす位置付けになっているので、さやまっ子相談支援員の部分をフォローするということで加配されている旨の答弁がなされた。いじめ、不登校対策としても、さやまっ子相談員、さやまっ子相談支援員との連携が大きな柱の一つになっているので、狭山台中学校また人間野中学校でも複数の相談員体制としてもらいたい旨の要望がなされた。

- ・平成28年度狭山市小中学生英語サマーキャンプの実施について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

平成28年8月3日（水）から8月5日（金）までの2泊3日で、市内小学校6年生15名及び中学校1年生8名を募って実施する。今年度は9名のALT全員が参加し、よりきめ細かい指導の充実を図る旨の報告がなされた。

- ・平成28年度奨学金貸与決定者一覧について

報告者（学務課長）

（要旨）

平成28年度入学者等の奨学金貸与決定者は、大学生9名、専門学校生6名及び高校生2名の合計17名である旨の報告がなされた。

- ・平成28年度当初就学援助費認定者数について

報告者（学務課長）

（要旨）

平成28年度当初の認定数は、要保護が小学校21人、中学校18人の合計39人、準要保護が小学校808人、中学校533人の合計1,341人である。また、非認定は小学校で2人、中学校2人の合計4人であり、生活保護基準額との比較で非認定となったものである。受給率は、全体で13.1%で、昨年度と比較すると0.1%の減となった旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、年々、貧困家庭の増加が実感されるなか、剣道部などでは、自分で防具を買う生徒もいるとのことで、大変な出費を強いられていると聞いている。できるだけ学校にあるものを使用するなどして、部活動に、できるだけ費用が掛からないようにし、機会均等の確保に努めてもらいたい。要保護、準要保護に認定されれば、学用品費などが補助されるが、非認定となったり、認定申請をしない人もいると思うので、ユニバーサルデザインの視点に基づいて、皆が同じように教育が受けられるように配慮してもらいたい旨の意見がなされた。家庭の経済状況もなかなか好転しないなか、古くなった制服や体操着、ジャージ等を学校やPTA等でストックして、安く売ったり無償で配布するという取り組みを、継続して行っていきたい旨の答弁がなされた。

- ・平成27年度市内公立中学校卒業者の進路状況について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

高等学校等進学率は、99%でそのうち全日制の高等学校は92%であり、その他1%が、専修学校や就職等である旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、進路未定者の現在の状況は、把握出来ているのか。また、所属するところがないので、見守りの連携を行っていかないといけないと思うがとの質疑に、状況の把握に努めていく旨の答弁がなされた。学校教育だけではなく社会教育や民生の部分でも連携していくような形を作っていくと良いと思う旨の意見がなされた。

- ・平成27年度教育指導事業について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

職員研修、研究委員会、学校訪問、語学指導助手の配置、小・中学校連携教育の推進及び生徒指導の充実等について報告がなされた。

- ・平成27年度学校施設整備実施状況について

報告者（教育総務課長）

（要旨）

校舎や体育館等の耐震工事を実施し、全校の耐震補強工事が完了した。その他、空調設備改修事業、消防設備や配膳室の施設改修事業及び学校統合にあたり教育環境の整備としてトイレの改修等実施した旨の報告がなされた。

- ・平成27年度社会教育関連事業実施状況について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

生涯学習推進事業、学校支援事業、家庭教育支援事業及び現代的課題等講座運営事業等について、報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、学校応援団の支援員の実働人数はとの質疑に、平成26年度は50,742人で平成27年度は51,562人である旨の答弁がなされた。

- ・平成27年度博物館入館者数について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

月別総入館者数及び企画展の入館者数について、また、昨年4月から指定管理者による管理を導入している旨の報告がなされた。

- ・平成27年度公民館利用状況について

報告者（中央公民館長）

（要旨）

主催事業及び貸館業務の件数や参加人数等について報告がなされた。

- ・平成27年度図書館利用状況について

報告者（中央図書館長）

（要旨）

利用者数、本やDVDなどの貸出数及びレファレンスなどの奉仕活動について報告がなされた。

- ・平成27年度社会体育関連事業実施状況について

報告者（スポーツ振興課長）

（要旨）

スポーツ教室参加状況、スポーツ・レクリエーション事業参加状況、プールの利用状況及び開放体育施設利用状況等について報告がなされた。

- ・平成27年度教育センター利用状況について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

施設の利用状況や教育相談件数等の報告がなされた。

- ・平成27年度教育センター主催研修等の概要について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

教職員研修、社会教育講座及び児童生徒体験講座について報告がなされた。

- ・狭山市教育委員会後援名義の使用行事一覧について

報告者（スポーツ振興課長）

（社会教育課長）

（要旨）

スポーツ振興課関係2件及び社会教育課関係4件の申請があり、審査の結果、使用許可を行った旨の報告がなされた。

議 案

議案第18号 狭山市立学童保育室条例の一部を改正する条例

受益者負担の適正化を図るため、狭山市立学童保育室の保育料に係る規定を改め

るとともに、同施設の保育時間に係る規定を改めるため、狭山市立学童保育室条例の一部を改正する条例を平成28年第2回狭山市議会定例会に提出するため、提案がなされたものである。

教育委員からの質疑等では、多子減額についての議会への説明はとの質疑に、議会の文教厚生委員会の協議会で、多子減額を行いたい旨話をしているが、規則で定めることを明確に説明していきたい旨の答弁がなされた。負担が大きくなるように感じられると思うので、全体像が見えるような形で提案したほうが良いのではとの質疑に、改正することによって財源構成の適正化に向かう等総括的な説明をしたい旨の答弁がなされた。

議案第18号については、原案可決した。

議案第19号 平成28年度狭山市一般会計（教育費）補正予算（第1号）

平成28年度狭山市一般会計（教育費）補正予算に関する議案を平成28年第2回狭山市議会定例会に提出するため、提案がなされたものである。

議案第19号については、原案可決した。

以 上